

情況

緊急特集 しのびよる 金融危機

「住専」さわぎの陰で進行する事態

変革のための総合誌
一九九六年六月号

- 本山美彦 ● 不良債権問題に見るシステム断層
- 柴田武男 ● 住専処理問題と日本社会
- 野下保利 ● 日米金融危機が意味するもの 非ケインズ型管理
通貨制度を求めて
- 小西一雄 ● 住専問題からみた不良債権と金融再編
- 石塚良次 ● 金融不安と資本主義
- 森野栄一 ● 金融のグローバル化にみる不安定な構図
- 河宮信郎・青木秀和 ● 住専問題の深部を暴く GDPは「経済
成長」の指標か

ダラ・コスタ ● 資本主義・開発・フェミニズム

田昌国 ● 沖縄とアジア / 吉田賢一 ● 「貨幣形態Z」：ワルラス世界の価値形態論 岩井克人「貨幣論」を評定する
浅田光輝 ● 激動の時代どともに一戦中・戦後、ひとつの証言 (連載第二回)

本の版出況情

日本の古代をひ

I 発掘が語る古代の社会と権力 平川南 古代史の新生——歴史学の閉塞と今日の課題 / 会 / 広瀬和雄 古墳時代の首長と農民 / 和田晴吾 見瀬丸山・藤ノ木古墳と六世紀のヤマト政権 / 史 律令国家の王権神話 / 奥村悦三 書くものと書かれるもの / II 文献学の新しい地平 神野志隆光 古代文庫研究からの提起 / 米谷匡 遠山一郎 柿本人麻呂の歴史的位置 / 藤原良章 穢忌避観念の発達と身分制 / 義江彰夫 浄土信仰の日本の展開
III 考古学、国文学、古代史学の第一線の研究者たちが共同で
吉野ヶ里遺跡・藤ノ木古墳はもとよりのこと、
記紀研究の最新成果をふまえ、日本古代史の全体像を把握する。

PEACCE! PEACCE! PEACCE!
わたしたちは戦争責任を
負わないのか
現代の若者は、はたしてあの戦争に対して責任がないのだろうか？
戦後五十年たったいま、日本の戦争責任のすべてを
わかりやすくとりえ、戦争を知らない世代に訴える書。

「廣松渉 コレクション」全六巻 完結
第六巻 ● 対論 知のアクチュアリーテート
数多くの名著を遺した廣松渉は、また対論・対立
哲学の分野に限定されない多様な顔ぶれとの
著書や論文からは容易に窺えない廣松の本音

義江彰夫・平川南・神野志隆光 (編)
情況五月号別冊
定価 二〇〇〇円

忽那敬三 (著・解説)
定価 三六〇〇円

わだつみ会 (編)
定価 一八五〇円

Comune di Padova
Sistema Bibliotecario
ALF - SLD
Sez. 4
Sottosez. 4
Serie 4
Sottos. 1
Unità 156 a
PUV 55
BUNTA7

情況 (第一冊) 第一一九九六年六月号 (六ヶ月刊) 発行 第二冊第七巻第六号 (第一冊) 毎月一回刊行
「情況」出版株式会社 東京都千代田区千代田 1-1-1 電話 03-5561-1111 FAX 03-5561-1112
「情況」編集 東京都千代田区千代田 1-1-1 電話 03-5561-1111 FAX 03-5561-1112

「私のところの人たちは開発に飽きて
いる。彼らが望むのはただ生きることだ
けだ」(『生きる喜び』一八八頁)。

これまで論じた展望において、フェ
ミニスト的視点から開発問題に接近しよ
うとする運動の側が課題に果たした貢献
に注目し、とりわけ人類および全生物の
尊重からいかに出発するかという点で、
すでに述べたエコフェミニズムの流れを
もつとも興味ある潮流のひとつとして挙
げておきたい。さらにエコフェミニズム
は、地域共同体における女性の知識や経
験を見くびらずにむしろ評価し、生命と
生存の源としての自然との関係に関する
議論、発展の資本主義的モデルに対す
る拒否権と自己決定権に関する議論を提
示する。フェミニズムのこの流れと、資
本主義的發展のなかでの女性や非賃金労働
者の状況を根本から分析した反資本主義
という意味でより急進的なフェミニズム
との交錯と、彼らの闘いととは、「いかな
る展望」が重要な貢献を果たしうるかを
問いかけている。単なる示唆にすぎない
が、このような文脈でこそ記憶しておき

知り、いまでは自身の未来を自立的につ
くりあげようとする意志を力よく表明するこ
も可能となった、人類の多様性にひそむ
膨大な能力もまた、土地とともに我々に
戻るのである。土地との関係、自由、時
間、資本主義的發展モデルが強制しつづ
けようとする労働と関係の回避といった
願いは、西洋の収奪された男性の長きに
わたる渴望でもある。こうしたことをお
そらく世界にどこまで深く実感させるこ
とができたかということが、チアパス反
乱の主人公らによって行われたように
――、不可能な逃走を夢みることでは
断念して別の生活への企てが、実は
世界中で通用するのだという認識を、は
じめて多くの人々に与えた。それは、生
活が労働一色のものではなく、自然が固
いこまれた公園ではなく、人と人との関
係がまえもって調整され、コード化され、
細分化されていらないような世界である。
こうして西洋の収奪された人間の深遠な
苦悩に触れたからこそ、労働者集団の全
体はチアパスの運命とともに心を震わ
せ、伝達、交信、宣言、支持のために無

たいのは、ヴァンダナ・シヴァの議論の
基本要素をなすその自然概念である。彼
女は、自然(プラクリティ)をシャクテ
イという女性原理、すなわち根源的・動
的なエネルギーで豊饒の源でもあるもの
の表現としてとらえるインド的宇宙観
を、解釈の鍵として再び手にする。プラ
クリティは、男性原理(パルシャ)とと
もに世界をつくる。女性たちは、他のあ
らゆる自然と同様、女性原理および生命
を創造し、保全する能力を備えている。
しかし、西洋の科学に特徴的な還元主義
の見方は、ヴァンダナ・シヴァの告発す
るところによれば、生命サイクルを断つ
ことによって破壊を引き起こし、生命の
営みから女性原理を開放しつづける。自
然や女性に対する還元主義の見方は、こ
れらが商品や労働力を生産する手段に還
元されるかのようにみなのである。
『破壊を「生産」と解し、生命の更新
を「受動的なもの(Dassivus)」とみな
す家長制の類別が生存の危機を生み出
してきた。自然と女性の「特性」とされ

数のキーをたたいた。無数の手足を動か
し、無数の声をはりあげた。
この二〇年間の南北アメリカおよび世
界の地域に根ざした運動の成長とともに
に、すでに形成された連絡や結びつきと
いう下地、北米自由貿易協定(NAFTA)
に対抗すべく近年密になり、強化された
関係や情報や分析の網の目は、相互の連
絡と活動とを推進する第一の組織となつ
た。労働者という社会的集団のさまざま
な部分を巻きこみ、世界各地から援助や
忠告にやってくる。土地のものではない
労働者や民衆、エコロジスト運動の活動
家、女性グループ、人権活動家すべての
支援活動をかち取りながら。だが、こう
した人間や集団のすべてをついに動かし
たということは、彼らが地域の運動のな
かに自身の要求を認め、土地の人々の解
放のなかに自身の解放を見いだしたこと
でもあるのだからである。
第三世界の人々が問題をとく鍵をもた
らした。それらはすぐ手のとどくところ
にあり、二一世紀に入るための別の扉を
あけることができる。外には洪水が達し、

る受動性は、自然と生命の活動を拒むこ
とであり、進歩と開発のカテゴリーとさ
れる断片化と均一化は「生命の網」が織
りなす生きる力とそれが構成する要素と
パターンとの多様性を破壊することであ
る」(『生きる喜び』一八八頁)。

「エコロジーとしてのフェミニズム、
すべての生命のみなもと、プラクリティ
の復活としてのエコロジーが、政治的・
経済的な変革と再編の草の根の力になっ
ていく」(同二二二頁)。
『女たちによる今日のエコロジーの闘
いは、着実性と安定性が停滞ではないこ
と、自然の基本的なエコロジカルなプロ
セスと調和するのは技術的な後進性を意
味するのではなく、高度化であることに
明確にしていく新しい試みである』(同
五二―五三頁)。
土地や、水や、自然をめぐる議論は、
地域の女性たちの知と地域の運動に支え
られ、古代の文明が秘めてきた豊かさ
と明るみに出すことになつた秘密のもつ
とも貴重なものを我々に返す。だが、抵
抗し、固有の文明的遺産を保全する術を

河はセメントの土手を破壊し、最新の多
収品種の稲を水浸しにして氾濫している
。アマンはその茎を水面から出しつづ
け、農民たちは数百種もの土着の種子を
育む。
注
(1) 『イル・マニフェスト』紙(一九九四年
八月二日)参照。ただし、この写真は当紙
ばかりか他紙によつても幾度もくりかえし
とりにあげられた。「コパス」(obras)は、
伝統的組合組織への委任を拒否し、労働条
件の交渉を目的として自発的に組織され
た、労働者を基盤とする自律的な団体であ
る。現在は全国的な連絡網が存在する。
(2) ミッドナイトノート・コレクティブの
第三部(一九九二年)はこの問題を扱って
いる。
(3) 私が学生にむけて毎年担当していた
「資本主義」に関する講義では、一九七〇年
に労働日の歴史を特徴づける二つの対立
傾向に関して基本的な論点を解説したが、
この講義はのちに刊行された(M. ダラ、
コスタ、一九七八年)。大学の授業では資

本論の基本的部分、主に本源的書齋に関する部分の解説を続けているが、これは資本論で論じられていた過程と比べて、資本主義的分業や資本主義における女性プロレタリアートの個性の創出という論点をあきらかにする目的で、私が属しているフェミニスト陣営の研究作業によって分析され、総括された時代である。だがこの時代がフェミニズムのさまざまな潮流から決定的に重要であるとみなされているのは偶然ではない。

(4) イタリヤ語版の編者から聞いたところでは、「負の開発」(英語で *maldevelopment*) とは原著者によって「誤った開発」の意で用いられており、またあえて「男性的であるがゆえに誤っている」(英語で男性の形容詞は *male*) というその本質に対する示唆を含んでいる。この用語およびこれに相当するフランス語 (*maldevelopment*) は、当初は政治的というより生物学的な意味で造語されたが、以来この問題に関する文献の共通語のひとつとなった。

(5) イタリヤ語版の訳者によれば、原著者はこの著作全体をつうじて「部族」(*tribals*) 四年三月五日午後八時四〇分からニチャンネルで放送されたもので、こうしたネットワークとフランスの法的状況との関係をあきらかにしていた。

(10) 奴隷に関しては驚異的な数値が報じられたので(一九九〇年一月六日の「エコノミスト」誌によれば世界中で二〇億には時宜を得たものと思われる。うち一〇億は子供たちが占めているだろう。「イル・マニファエスタ」紙一九九四年八月六日は、この件に関して前日に発表されたユニセフの報告を引用している)。

(11) 一九九四年四月月六日付けのバドヴァの新聞「イル・マッテイーノ」は、「身体障害者の売買」という記事で、旧ユーゴスラヴィアの女性や戦争ゆえに身体に障害をおったものを搾取する組織が発見され、告発されたてんまつを報じている。メーヌストレ(ヴェネチア県)では、こうした女性たちは売春に従事するために、障害者たちは物乞いをするために派遣されていた。

という語をインドの「法定部族」、すなわちインド憲法が(とくに不利な立場にある)と認識されるがゆえに「法定カースト」にならべて規定した民族集団を構成する五千万の人間を示すものとして用いている。とくにいくつかの州(オリッサ、アーンドラプラデッシュ、ハリヤナ)に多くみられる、市場経済にまったくあるいは少ししか統合されていない集団の問題として、彼らは固有の社会組織(非男性主義的で、いっばんに平等主義的)と、生活に不可欠な天然資源とのきわめて「持続的」な関係を特徴とする。いずれにせよ彼らは、自分たちのカースト外の非部族の住人からは軽蔑され、農工業の生産組織に参入せざるをえない場合には低賃金のあるいは無給の労働力と見なされる。それゆえ、さらにこの説明にしたがうならば、「部族」という語は、インドについては社会人類学的意味だけでなく法的な意味をももっている。

(6) 「資本は、労働力の寿命を問題としない」(経験から資本家一般が知っていることは、いつでも過剰人口があること、...)「後は

アリーチによるナイジェリアのポートハーコート地域に関するものがある。

(13) 反乱が爆発した一九九四年一月一日以来、各紙の報道は続けられた。「イル・マニファエスタ」をはじめとするさまざまな新聞で、反乱者の主な要求や彼らとともにいた女性たちのことが少しづつ報じられた。要求の全体像や運動の盛り上がりに関する非常に正確な情報が、ゴメス(一九九四年)とクリーヴァー(一九九四年)の手でまとめられた。「女性の革命法」に集約された女性たちの諸権利の短かな概説は、コッポとビサーニの編書(一九九四年)にもみられる。マヤ地方(グアテマラ)の女性の状況を知らるうえで不可欠な文献として、「ブルゴス」の「私の名はリゴベルタ・メンチュウ」もあけておかなければならない。

(14) ともかくこの何年かで、アブローチは多様であるが、さまざまな理論の影射と自然との関係を中心におく議論、とりわけマルクス主義とエコロジーとを結びつけようとする一定の試みが、国際レベルで盛んとなった。この種の論争を掲載するもつとも著名な雑誌としては、明確にエコマルクス

野となれ山となれ! これがすべての資本家と、すべての資本家国民との標語である」(「資本論」一五二頁、一五八頁、一五九頁)。

(7) 「ラ・レプブリカ」紙(一九九四年五月一七日)には、「サラエヴォの子供たちはどこへ」という記事が載った。書き出しはこうである「戦禍のボスニアを立ち去った子供たちはどこへたどりついたのか?」。

記事はなかでも、人道主義的組織そのものがいかに幼児売買に関する身も凍るような数字を増加させているかを報じ、受け入れ先のイタリヤ人の手に落ち、その後脱出に成功した一四才の少女の事件を伝えている。同記事はさらに週刊新聞フォークスによるルポルタージュにも言及している。

(8) 子供たちがボルノグラフィー市場でしだいに利用されつつあることは、一九九三—一九九四年にかけて、大新聞がより頻繁に報じた事実である。

(9) 臓器の密輸に関しては、合法的な到着先をともなう犯罪的な国際企業やネットワークが増加している。この問題に関しては、国営放送のテレビ番組で様々な報道がなされた。もつとも興味深かったのは、一九九

主義的立場をとる「資本主義、自然、社会主義」(Capitalismo, Natura, Socialismo) があげられる。同誌に掲載されたとくに広範な論争は、オコンナーの「資本主義の第二の矛盾」に関するテーゼ(一九九二年)をめぐって発展した。左翼と環境保護論者の主張との関係は、とくにリコヴェツリ(一九九四年)を参照。

(15) 今後のイニシアティヴを二つあげておくにとどめる。一九九四年七月、ナポリでG7への対抗として貧しい人々の反首脳会議を実現するために、諸団体の広範な連絡組織として設立された「人民のサークル」。そして、ブレトン・ウッズとそれを契機とする体制の五〇周年を祝う世界銀行とIMFの共同年次総会にあたり、一九九四年一〇月の最初の一日にスペインで開催される、膨大な数の団体からなる環境保護の反首脳会議である。この間、人民の権利のための同盟は、ローマのパソ財団でのイヴেন্টにむけ、すでに一九八八年にベルリンでのIMF総会の際に行われたように、マドリッドでの首脳会議の会期中に発表するブレトン・ウッズ体制に対する判決

参考文献

Boserup, E. (1982). *Il lavoro delle donne. La divisione sessuale del lavoro nello sviluppo economico*, Torino, Rosenberg & Sellier.

Burgos, E. (1991). *Mi chiamo Rigoberta Menchú*, Giunti, Firenze. 邦訳『秘の谷のヒロコ』タ・ケンキョウ——キチエ蔵インテンテイオ女社『記録』高橋早代訳、一九九一年、新藤社。

Cafruzzi, G. (1993). *La crisi del debito in Africa e sue principali implicazioni per la riproduzione sociale*, in Dalla Costa M. & Dalla Costa G.F. (eds.).

Cleaver, H. (1977). *Food, Famine and the International Crisis in Zero work*. Political Materials 2, Fall.

Cleaver, H. (1994). "The Chiapas Uprising and the Future of Class Struggle", in *Common Sense* No.15.

Coppo, P. & Pisani, L. (eds.) (1994). *Armi indiane. Rivoluzione e profezie maya nel Chiapas messicano*. Edizioni Colibri, Milano.

marzo.

Gomez, Luis E. (1994). "La nuova cavalcata di Emiliano Zapata" in *Riff Raff*, March.

Il Manifesto, 8.06.1994.

Il Mattino di Padova, 4.06.1994.

La Repubblica, 17.05.1994.

Marx, K. (1976). *Capital. A Critique of Political Economy*. Volume One, London, Penguin. 邦訳『資本論』岩波書店、一九七六年、一、二、三、四冊、邦訳大蔵。

Mellor, M. (1992) *Breaking the Boundaries. Towards a Feminist Green Socialism*, Virago Press, London. 邦訳『緑の社会主義』——一九九二年、社会思想社、一、二、三、四冊、邦訳大蔵。

Mellor, M. (1993) "Ecofeminismo e ecocapitalismo. Dilemmi di essenzialismo e materialismo", in *Capitalismo, Natura, Socialismo*, Marzo.

Michel, A., Fatoumata Diarra A., Agbessi Dos Santos H. (1981). *Femmes et multifonctionales*. Karthala, Paris.

Michel, A. (1988). "Femmes et development en Amerique Latine et aux Caraibes", in

Dalla Costa, G.F. (1989, 1990 2 ed.). *La riproduzione nel sottosviluppo. Lavoro delle donne, famiglia e Stato nel Venezuela degli anni '70*. Angeli, Milano.

Dalla Costa, M. and James S. (1972). *The power of women and the subversion of the community. Falling Wall Press, Bristol*. 邦訳『女性の力』——一九七二年、社会思想社、一冊、邦訳大蔵。

Dalla Costa, M. (1978). *Note su La gioiatura lavorativa in Marx, appunti da un territorio del Capitale*. Cleup, Padova.

Dalla Costa, M. and Dalla Costa, G.F. (eds.) (1993). *Paying the Price: Women and the Politics of International Economic Strategy*. Zed Books, London. 1995. 邦訳『女性と世界の経済』——一九九五年、社会思想社、一冊、邦訳大蔵。

Dalla Costa, M. (1995). *Capitalism and Reproduction*, in Bonfield et al (eds.) (1995). Open Marxism.

Recherches feministes, vol 1, No.2.

Michel, A. (1993). *Donne africaine, sviluppo e rapporto Nord-Sud*, in Dalla Costa M. and Dalla Costa G.F. (eds.)

Midnight Notes Collective (1992). *Midnight Oil. Work, Energy, War 1973--1992*. Midnight Notes, Autonomedia, New York, N.Y.

Mies, M. (1986). *Patriarchy and Accumulation on a World Scale. Women in the International Division of Labor*. Zed Books, London.

Mies, M. (1992). *Global Is in the Local*, report at the Mount Saint Vincent University, Halifax, Canada, 25.02.

Mies, M. and Shiva V. (1993). *Ecofeminism*, Zed Books, London.

O'Connor, J. (1992). "La seconda contraddizione del capitalismo: cause e conseguenze", in *Capitalismo, Natura, Socialismo*, No. 6, dicembre.

Ricoveri, G. (1994). "La sinistra fa fatica ad ambientarsi", in *Capitalismo, Natura, Socialismo*, gennaio-aprile.

Shiva, V. (1989). *Staying Alive: Women, Ecology and Survival in India*. Zed Books, London. 邦訳

Dag Hammarskjöld Foundation (1975). *What now? Another Development*, Uppsala.

Del Genio, G. (1994). "La Banca inonda il Bangladesh", in *Capitalismo, Natura, Socialismo*, n.1, gennaio-aprile.

The Economist, 6.01. 1990.

Federici, S. Fortunati, L. (1984). *Il Grande Calibano. Storia del corpo sociale ribelle nella prima fase del capitale*. Angeli, Milano.

Federici, S. (1992). *Developing and Underdeveloping in Nigeria*, in Midnight Notes Collective.

Federici, S. (1993). *Crisi economica e politica demografica nell'Africa sub-sahariana. Il caso della Nigeria*, in Dalla Costa M. and Dalla Costa G.F. (eds.)

Fortunati, L. (1981). *L'arcano della riproduzione. Casalinghe, prostitute, operai e capitale*. Marsilio, Padova (English translation: *The Arcane of Reproduction*, Autonomedia, New York, 1995).

Gisfredi, p. (1993). "Teorie dello sviluppo ed egemonia del Nord", in Res. n.7, gennaio-marzo.

Wakefield, E. Gibbon. (1833). *England and America. A Comparison of the Social and Political State of both Nations*. London.

Women's Action Agenda 21 (1991), in *World Women's Congress for a Healthy Planet*, Official Report, 8--12 November, Miami, Florida, USA, United Nations, New York.